

湯梨浜中学校だより



『礼輪笑活（れいわしょうかつ）』

湯梨浜町立湯梨浜中学校

校長 梅津 寿文

令和2年5月27日

【「わかる工夫・できる努力」していますか？】

5月も末に入り、中間テストが近づいてきました。1年生にとっては初めての定期テストで、なかなか思うように取り組めていない人もあると思います。

この一学期の中間テストの取り組みは、今後の学習の進め方にも大きく影響をしていきます。テストが返ってきたら、「テスト対策」・「家庭学習や授業の取り組み」・「ノートのとおり方や提出物」など、自分でしっかりと振り返って今後の具体的な取り組み方を考えていってほしいと思います。

『まさか、未だに授業中に机に伏せている人はいませんか？』『まさか、そのような仲間を見過ごしていたり、許しているような学級や班はありませんね！』まずは、自分で予習や復習をしっかりと、分かる努力をして登校することからです。

すぐに先生方や仲間に頼ってしまったり、「わからん！できん！」と投げ出す前に、自分で「わかる工夫・できる努力」を続けることが『湯梨浜中学校の当たり前』です。

ただ、生徒の皆さんにだけ「頑張れ！しっかりやろう！」と言っているのではなく、先生方も授業研究会を繰り返しながら、皆さんが「より自主的に・より分かりやすい」ように研究を進めておられます。例えば「説明方法」、「班での話し合いや関わり方」、「学校にきて学んで良かったと思える授業づくり」等々、一時間ごとの授業を大切に改善していけます。

特に『協同学習（自分の学びが仲間の役に立ち、仲間の学びが自分の役に立つ）』

について、ともに学んでいくことの大切さを意識して取り組みましょう。

また、発表の語尾には「・・・です。」「・・・だと思います」をつけることや「敬語」がきちんとつかえるようにも意識しましょう。高校入試直前になって、短期間では身につかない大切なことです。



【こんな時だからこそ】

去年のこの時期には、部活動参観日として多くの保護者の方々に参観していただきましたが、今年はこの度の新型コロナウイルスへの対応のために、残念ながら今のところは実施できていません。去年のこの時期は生徒の皆さんも県総体予選会に向けて練習に一段と熱が入っていましたが、対応が注目されていた運動部の「中部地区総体」の開催が正式に7月18日・19日を中心に決定されました。

今後、各種目の担当部会が開かれて詳細が決定されていきます。しかし、以前に記載したとおりで「種目の特性・会場・役員」、そして感染症対策等々さまざまな問題を解決しての判断となります。

また、文化部の活動について影響が大きいのが吹奏楽部ですが、6月開催予定の「サマープラス」7月の「吹奏楽コンクール県大会」の中止が決定されています。会場の確保が難しく、演奏自体にも相当な配慮が必要となるようです。それでも運動部と同じように、「特に3年生への配慮で何とかしたい」という思いは皆同じで、その対応策に知恵を注いでいるところです。

他にも、中部地区中学校文化祭の在り方、科学部の研究発表・家庭部等の作品の展示等についても協議されているところで、さらには英語弁論や国語弁論等の文化的な活動についても難しい対応を迫られている現状です。

しかし、「全て自粛」という考え方だけではなく、少しでも形を変えて開催できる方法を見つけていくことを提案しているところです。無理なことをせずに感染症への厳重な対応策を取る中でのことですが、「こんな時だからこそ」、皆で力や知恵を出し合ってできることを考えていきたいと思います。保護者の皆様にはご理解とご協力をお願いすることもあると思いますが、その時にはよろしくお願いします。

《今後の予定》

- ①参観日について、できれば一学期に一度でも参観いただきたいと考えていますが、今後の感染症対策に対する県教委・町教委の指示次第になります。
- ②運動会（9月5日【土】）について、6月の職員会で内容は正式に決定してPTA役員さん方にもお知らせして、その準備等をお願いすることにしています。ほとんどの中学校では、今年は午前中の開催（感染症・熱中症対策）と考えています。
- ③新人戦（10月2・3日）・校内文化祭（10月31日・11月1日）については今後の状況次第です。
- ④修学旅行（10月16日～18日：関西方面）は現時点では実施の予定です。

【自分の身は自分で守る！】

5月25日（月）、「地震の発生」を想定しての避難訓練を行いました。「自助・共助」という言葉があるとおり、まずは「自分自身の命を自分で守る」ことを十分に意識しておいてください。状況によっては周囲に誰もいない中で、自分一人で判断し、行動しなければならないこともあります。そして、周囲に助けを必要とされる方があった時は、最初に「自分に被害がないこと」を確認して、周囲の大人への支援要請、救助用具等を活用して手助けができることもあることを頭の中にしっかりと入れておいてほしいと思います。判断を間違ったり、無理をして自分が被害に巻き込まれてしまうことのないようにしてください。テレビや新聞等では「溺れた人を助けた・電車の線路に落ちた人を救った」等々の話もある中で、二重事故（助けようとした人が被害を受けること）も少なくありません。

これから生きていく中で、何事もなく過ごせればよいのですが、不審者対応に限らず、自然災害や交通事故等々さまざまな危険から自分で自分の身を守る力（判断力・知識）を、ぜひとも身につけてください。特に今こそ、この感染症対策に対しても必要なことだと思います。